

平成29年度 病害虫発生予察情報(美濃地域:施設野菜) 1月予報

【イチゴ】ハダニ類

寄生株率の高いほ場が確認されています。同一ほ場内でも局所的に発生する場合がありますため、よく観察してください。天敵を導入したほ場でハダニ類の発生が抑制できない場合は、薬剤による防除を徹底し、春先に再度、天敵を導入してください。

【施設野菜】灰色かび病

トマトでは葉先枯れや枯死した花卉、イチゴでは収穫後の果梗で発生が見られます。今後の気温は平年より低く、降水量は平年並～少ないと予報されています。発病部位は早期に除去するとともに、枯死部位は本病の発生源となるため、早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し、処分してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(1月)

作物	病害虫名	1月(予測)	発生状況及び今後の予測	12月(発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	やや少	枯死部位で発病が認められる。今後、降水量は平年並～少ないと予報されるが、山間地域のほ場では発生に注意する	少	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病 発病果や枯死した果梗は見つけしだい除去し被害の拡大を防ぐ。 ・ハダニ類 ほ場内をよく観察し、局所的な発生に注意する。防除薬剤は同一系統の連用を避ける。
	うどんこ病	少	調査ほ場で発病は認められない。気温が発病適温を下回るため、急激な増加はないと予測される。	少	
	ハダニ類	並	調査ほ場により発生量に差がみられる。秋に発生量が多かったほ場では、気温上昇に伴ない発生量が急激に増加するので注意する。	並	
	コナジラミ類	少	調査ほ場で発生は認められない。今後、気温の低下により、急激な増加はないと予測される。	少	
トマト	灰色かび病	やや少	葉での発病が認められる。今後、降水量は平年並～少ないと予報され、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・コナジラミ類 厳寒期でも低密度で生息しているため防除を徹底する。
	コナジラミ類	やや少	調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の低下により、急激な増加はないと予測される。	やや少	
※キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場で発病は認められない。耐病性品種は今後も発生は少ないと予測されるが、罹病性品種は発生に注意する。	少	<ul style="list-style-type: none"> ※12月調査は促成作型1月予報は半促成作型 ・べと病 暖房機や循環扇等を利用し、葉の結露時間を少なくする。また、罹病葉を取り除き、薬剤散布を行う。 ・アザミウマ類(ミナミキイロ) 厳寒期でも低密度で生息しているため、防除を徹底する。
	うどんこ病	やや少	調査ほ場で発病は認められる。気温が発病適温を下回るため、急激な増加はないと予測される。	やや少	
	べと病	少	調査ほ場で発病が認められない。今後、降水量は平年並～少ないと予報され、急激な増加はないと予測される。	少	
	アザミウマ類	少	調査ほ場で発生は認められない。今後、気温の低下により、急激な増加はないと予測される。	少	
	コナジラミ類	少	調査ほ場で発生は認められない。今後、気温の低下により、急激な増加はないと予測される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注2) 調査品種：イチゴ(濃姫・美濃娘)、トマト(CF桃太郎J:葉かび耐病性)、キュウリ(千秀2号:褐斑病耐病性)

キュウリ ミナミキイロアザミウマ

【キュウリ黄化えそ病のウイルスを媒介する微小害虫】

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病のウイルスを媒介します。本虫は、植物の間を飛び回り、次々とウイルスを媒介するため、低密度でも大きな被害を与える場合があります。

作型を切り替える場合は、次作の定植まで20日以上空け、保毒虫が次作に引き継がれないようにしましょう。

施設内をよく観察し、本虫の発生に注意してください。また、以下の対策により防除を徹底してください。



成虫(体長約1.3mm)

- ①作型切替時は、前作物の残渣や施設内の雑草で生存するため、処分を徹底する。
- ②定植直後の増加を防ぐため、定植時には粒剤を施用する。
- ③開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で被覆する。
- ④薬剤散布を行う場合、同一系統薬剤の連用を避ける。

数値データ

(調査12月:岐阜西濃地域)

作物	病害虫名	単位	H29	平年
イチゴ	灰色かび病	(発病果率)	0	(0.1)
	うどんこ病	(発病株率)	0	(0.0)
	ハダニ類	(寄生株率)	29.0	(30.2)
	コナジラミ類	(寄生株率)	0	(3.0)
トマト	灰色かび病	(発病果率)	0	(0.0)
	灰色かび病	(発病株率)	0.01	(0.02)
	コナジラミ類	(誘殺頭数)	2.9	(4.7)
キュウリ(促成栽培)	褐斑病	(発病葉率)	0	(0.4)
	うどんこ病	(発病葉率)	0.01	(4.1)
	べと病	(発病葉率)	0	(7.0)
	アザミウマ類	(寄生頭数/葉)	0	(0.1)
	コナジラミ類	(寄生頭数/葉)	0	(0.0)

注1)イチゴは2ほ場、トマトは3ほ場、キュウリ(半促成作型)は1ほ場調査

注2)()内数値は平年値、株率、果率、葉率は%、頭数は頭

注3)トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板1枚あたりの誘殺数(調査期間:11月5半旬~12月3半旬)

＝施設栽培の病害虫防除について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台 12月21日)

向こう1カ月の平均気温は平年より低く、降水量は平年並～少なく、日照時間は平年並～多い予想です。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。山間部では平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767